原子力発雷所

エクステンション付きバルブを貫通シャフト式ユニハンドラーで遠隔操作

納入先:電力・原子力発電所 UH-001

変更前の機構/構造説明

変更後の機構/構造説明

また、アタッチメントがAM-W型(手動-電動切換式)

管理区域及び非管理区域を隔てる隔壁内手動弁のステム にユニバーサルジョイントを繋げ隔壁外部まで延長し 手動ハンドルにて操作を行なっていた。(写真参照)

隔壁部に貫通シャフト(参考図参照)を設け、隔壁 外部にアタッチメントを設置し、ユニハンドラーの フレキシブルシャフトと接続することにより簡易に バルブ開閉が可能。





であり駆動本体での電動操作、アタッチメント付属 ハンドルによる手動操作も可能である。(図面参照) <u>450</u>(5) 溶接または、ボルトにて固定 900(壁厚) (1490) 300(鉛毛) グリップ 折りたたみ式 <u>アンカーボルトにて固</u>定 59 対象バルブ (6)(4)|溶接止めとする (2) (8) (9)(S) (1) (3)



(1)装置・機器の概要説明 (現地既設の駆動本体、同左用フレキシブルシャフトは流用とする)

アンカーボルトにて固定

(1320)

- ①アタッチメント AM-100W
- ②同上専用ハンドル
- ③貫通シャフト
- ④支持金具
- ⑤アダプター
- ⑥アンカープレート
- (2)変更前の問題点

弁ステムにユニバーサルジョイントを用いて長尺軸を取り付け、その先端(隔壁外)に小さな ハンドルがついていた。弁に減速機がない、ハンドルからステムまでの距離が長い、ハンドルが 小さいことに因り、非常に大きな力で目つ継続的にハンドル操作をおこなう必要があった。 また、弁前後の配管が圧力・熱などで設置当初より偏芯を起こし、それに因り弁取付の ユニバーサルジョイント部も歪んでいたため相当数の力が無いとハンドルでの開閉が出来ない 状態であった。

(3)変更後の利点

既設のユニハンドラー駆動本体が活用できるため弁開閉がスムーズ且つ迅速に 行なえる結果となった。